

畜産試験場だより

酪農試験場

お需めに応じて、最近の場の動向、実績、ニュースを取りまとめて御知らせします。

— [かもと生] —

動向 ◎ゼミナールの実施 技術屋が専門に分化してくると、兎角周囲のことがウトクなり勝ちだ、これはお互いに意識して、なるべく広い視野にたつてものをみつめ、判断しないとこの転換期の農業に棹さすことが出来ないと考え、場職員の研修の場を作った。

そして色々と関連ある知験を交換しディスカッションすることとしている。

◎第一線との連絡強化。場内に閉じこもってはいは現実の動きや息吹が感じられない。出来るだけデカに農薬や実態に接したいと願っている。その意味で先ず「かいより初めよ」で北酪の第一線技術員と交歓した。次いで県下の酪農家有志とも実情や知験の交流をはかりたいと目論んでいる。又具体的な方法の一として県北の数カ所の酪農家を選んで、水田裏作の牧草栽培の実績調査にのり出し協力を求めることにしている。

◎ジャージー対策 ジャージーが最近東北地方で一部失敗例が誇張されて少し問題となり出した。中央での態度が不明確なことも波紋を大きくしているのではなかろうか。

岡山でも決して平穏状態ではない。ジャージー地帯での経営に階層差がでてきたこと。産犢の流通が一時円滑を欠いたこと。乳価の算出基準に先行不安を感じていることなどがあげられよう。この現状に処して我々は手を拱いてはならない。恒久的で自主的な対策が望まれること切である。先ず

(1) 選択淘汰の実行 早ければ早い程よく方針を定めた上で連帯の共済制度を活用し県や団体、会社の指導、協力を望みたい。

(2) 改良方向 日本ジャージーの改良方針を確立して、それに対する種畜対策、保留制度、育成施設、草地造成、等の具体策を総合すべきだ。

(3) 流通対策 産犢の流通は国が制約を緩和すると前後して自漬作用の心配があるようだ。これに対

して地元の組織制度に根拠をすることと、行政力、政治力のバックアップが欲しいと思う。そして先ず淘汰と経営の安定を計り会社側の乳価取引の強力を求め、将来の発展を期したい。

実績 ◎草地造成。場内前北端の原野が、去る10月開拓トラクター班の応援ですっかり開墾された。この草地には又巨費を投じて灌溉用にスプリンクラーを付設された。これで草地としての条件は全く整って既にイタリアンライグラスが一面に青い芽をふいている。何れこの牧草地は場内自給地の宝庫となるのも近いであろう。

◎凍結精液の試験 輸入牛コバークの夏期対策として超低温装置が設備された。これによって凍結能が検査されているが今のところ、コバークは必ずしも良くない。一般に若い牛とジャージーが良いようだ。今後検討は続けるとして一方実用化についても考えてみたい。目下隣県との間の凍結精液の交換も進めること交渉している。別に野外テストも実現してみたいと考えている。

◎飼料作物関係 牧草類の生産力調査は中間報告だが、イネ科ではオーチャドとケンタッキー31 フェスクが、マメ科ではラジノクローバーが圧倒的に良いようだ。昔から親しまれている牧草は流石に成績の上でも偽りはないとみたい。

飼料作物の刈取労働時間を当场で比較した結果は次表の通りである。労力管理上、ちょっと参考になる実績であろう。

◎増築工事 情ない実績である。ゼロの実績である。当初予算で種牡牛舎の公舎の新築を計上され、4月早々に設計に取り掛

種 類	反 収	当 量	100 K ₉ 当 刈取時間
レ ー プ	3,078	K ₉	13.0分
オ ー ト	5,366		13.6
イタリ ア ン ラ イ	6,664 (1-2番)		32.5
デ ソ ト コ ー ン	3,989		19.7
ラ ジ ノ ク ロ ー バ ー	7,442 (1-4番)		54.0

岡山畜産便り 1960. 11・12

かったものが未だ着工出来ないことだ。どうしてこんなにズレテ、そして、建築資材の値上りを待ち、従って設計通りの工事が運ばなくなり、寒い時期で愈々工程が進まない。ていねいな時間をかけて仕上りが満足なものにならない訳は一体どう云うわけでしょう。私は分からない。

「ニュース」

◎**絵と酪農人** 当場の上原技師と高橋さん（女子職員）が揃って今秋の県展洋画にめでたく入選した。何れも30号の力作で勤めの余暇に描いたものである。畜産畑にもこんな香り高い芸術家が埋れていることに眼を見張って頂き、その精進に拍手を送りたい。

◎**スポーツと酪農人** 当場の吉田技師補は今年の国体馬術に本県適手として出場、障碍に2着となった。ふだん、畑につくばっていて馬上豊かな姿を想像だにしかっただけに、ここにも隠れたる逸材が居ることを御紹介しておきたい。

◎**花と酪農** 職場に花を、花一っぱいと近頃は身近かにうるほいを求める時代となった。私共もせめて小さな花だんを作って場内の者も外来の人々にもやわらかい感覚を与えたいと思う。乳と蜜の流るる郷とかいうが、それに花をそえれば見たところだけでもユートピアの夢に近くなるだろう。

◎**光と酪農** 昼の場内は眺望も良く土地建物の配置も良い。しかし一たび夜ともなれば、真暗闇で路も畑も区別がつかない程に未開化してくる。夜もひる同様に近代化して、仕事の便を図りたいというので、最近自動点滅の蛍光外灯をつけた。夕闇迫れば、松林の中に、煌々と輝やき、早朝のもやの中にぼんやりとかすんで見える灯は詩情さえ覚えるようだ。夜の搾乳、早朝の仕事にどれだけ力づけ便利になったかは知る者ぞ知るである。

◎**へうたんと酪農人** 場内の風流人に「へちまやへうたん」を作って、その作品に余念のない人達が居る、見ている中に、仲々どうして。立派な格好のものが、大小さまざまに出来上りつつある。それらをていねいにみがいて、つやを出し木の枝などに乾かしている。ぶらりぶらりと風にゆられているのはチョット長閑な風景である。そして岡山県酪農試験場の金文字がへうたん越しに見え隠れしている。

へうたんもときとところによりけりで ぶ
らりとしては暮されもせず

ふと思ひ浮んだ自責の駄句である。

(35、11、1)